

平成 18 年度九州大学工学部編入試験問題

December 1, 2005

1 問題

行列 A を以下のように定義する。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & c & c \\ c & 1 & c \\ c & c & 1 \end{pmatrix}$$

ただし、 c は任意実数とする。

1. $|A|$ を求めよ。
2. c のそれぞれの場合の A のランクを求めよ。
3. c のそれぞれの場合の A の固有値を求めよ。

1.1

式を整理し行列式を計算する。

$$\begin{aligned} |A| &= \begin{vmatrix} 1 & c & c \\ c & 1 & c \\ c & c & 1 \end{vmatrix} \\ &= \begin{vmatrix} 1 & c & c \\ 0 & 1-c^2 & c-c^2 \\ 0 & c-c^2 & 1-c^2 \end{vmatrix} \\ &= \begin{vmatrix} 1 & c & c \\ 0 & (1-c)(1+c) & c(1-c) \\ 0 & c(1-c) & (1-c)(1+c) \end{vmatrix} \\ &= (1-c)^2 \begin{vmatrix} 1 & c & c \\ 0 & (1-c) & c \\ 0 & c & (1+c) \end{vmatrix} \\ &= (1-c)^2 \{(1+c)^2 - c^2\} \\ &= (1-c)^2(1+2c+c^2-c^2) \\ &= (1-c)^2(1+2c) \end{aligned}$$

$c = 1, c = -\frac{1}{2}$ のときは A は正則でない。

1.2

 $c = 1$ の場合

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

したがって $\text{rank} A = 1$ となる。

$c = -\frac{1}{2}$ の場合

$$\begin{aligned} \mathbf{A} &= \begin{pmatrix} 1 & -\frac{1}{2} & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & 1 & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & -\frac{1}{2} & 1 \end{pmatrix} \\ &\rightarrow \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & -1 \\ -1 & -1 & 2 \end{pmatrix} \\ &\rightarrow \begin{pmatrix} 0 & -3 & 3 \\ 0 & 3 & -3 \\ -1 & -1 & 2 \end{pmatrix} \\ &\rightarrow \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & -3 \\ -1 & -1 & 2 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

したがって $\text{rank } \mathbf{A} = 2$ となる。

1.3

$c = 1$ の場合

固有方程式は、

$$\begin{vmatrix} 1-\lambda & 1 & 1 \\ 1 & 1-\lambda & 1 \\ 1 & 1 & 1-\lambda \end{vmatrix} = 0$$

となる。固有方程式を解くと、

$$\begin{aligned} (1-\lambda)^3 + 2 - 3(1-\lambda) &= 0 \\ 1 - \lambda^3 + 3\lambda^2 - 3\lambda + 2 - 3 + 3\lambda &= 0 \\ \lambda^2(3-\lambda) &= 0 \\ \begin{cases} \lambda = 0 \\ \lambda = 3 \end{cases} \end{aligned}$$

となる。したがって固有値は $\lambda = 0, \lambda = 3$ となる。

$c = -\frac{1}{2}$ の場合

固有方程式は、

$$\begin{vmatrix} 1-\lambda & -\frac{1}{2} & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & 1-\lambda & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & -\frac{1}{2} & 1-\lambda \end{vmatrix} = 0$$

となる。2倍して固有方程式を解くと、

$$\begin{aligned} (2-2\lambda)^3 - 2 - 3(2-2\lambda) &= 0 \\ 8 - 8\lambda^3 + 24\lambda^2 - 24\lambda - 8 + 6\lambda &= 0 \\ -8\lambda^3 + 24\lambda^2 + 18\lambda &= 0 \\ \lambda(-8\lambda^2 + 24\lambda + 18) &= 0 \\ -2\lambda(4\lambda^2 + 24\lambda + 9) &= 0 \\ \lambda(2\lambda - 3)^2 &= 0 \\ \begin{cases} \lambda = 0 \\ \lambda = \frac{3}{2} \end{cases} \end{aligned}$$

となる。したがって、固有値は $\lambda = 0, \lambda = \frac{3}{2}$ となる。

2 問題

1. $y'' - ay = 0$ の解を求めよ。ただし、 a は実数とする。
2. $y'' = -a^2y$ の解で、 $y(0) = 0, y(l) = 0$ を満たす a を求めよ。
3. $y'' + a^2y = f(x)$ の一般解を求めよ。

2.1

$$y'' - ay = 0$$

$y \propto e^{\lambda x}$ とすると特性方程式は、

$$\lambda^2 = a$$

となる。

$a = 0$ の場合

$$\lambda = 0$$

となり、一般解は、

$$y = Ax + B$$

となる。

$a < 0$ の場合

$$\lambda = \pm\sqrt{a}i$$

となる。したがって一般解は、

$$y = A \sin \sqrt{a}x + B \cos \sqrt{a}x$$

となる。

$a > 0$ の場合

$$\lambda = \pm\sqrt{a}$$

となる。したがって、一般解は、

$$y = Ae^{\sqrt{a}x} + Be^{-\sqrt{a}x}$$

となる。

ただしいずれの場合も A, B は積分定数である。

2.2

$$y'' = -a^2y$$

の一般解は、積分定数を A, B として

$$y = A \sin ax + B \cos bx$$

となる。

境界条件を代入すると、

$$\begin{aligned} y(0) &= B = 0 \\ y(l) &= A \sin al = 0 \end{aligned}$$

となる。 $A \neq 0$ となる解の条件は、

$$a = \frac{n\pi}{l} (n = 0, \pm 1, \pm 2, \dots)$$

である。考えうるすべての n に関しての和が解となりえるから、解は

$$y = \sum_{n=-\infty}^{\infty} A_n \sin \frac{n\pi}{l}x$$

となる。ただし、 A_n は n により異なる積分定数である。

2.3

$$y'' + a^2 y = f(x)$$

同次解を y_1, y_2 とすると

$$y_1 = \sin ax$$

$$y_2 = \cos ax$$

となる。

解が、 x の関数 u_1, u_2 を用いて、む

$$y = u_1 y_1 + u_2 y_2$$

と仮定すると、 u_1, u_2 は次式を満たす。

$$\begin{pmatrix} y_1' & y_2' \\ y_1 & y_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} u_1' \\ u_2' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} f(x) \\ 0 \end{pmatrix}$$

u_1, u_2 について解くと、

$$u_1 = \int \frac{f(x)y_2}{y_1'y_2 - y_1y_2'} dx$$

$$u_2 = - \int \frac{f(x)y_1}{y_1'y_2 - y_1y_2'} dx$$

となる。これらを計算する。

$$y_1'y_2 - y_1y_2' = a \cos^2 ax + a \sin^2 ax = a$$

$$u_1 = \frac{1}{a} \int f(x) \cos ax dx$$

$$u_2 = -\frac{1}{a} \int f(x) \sin ax dx$$

以上より、積分定数を A, B として一般解は、

$$y = A \sin ax + B \cos ax + \frac{1}{a} \left\{ \sin ax \int f(x) \cos ax dx - \cos ax \int f(x) \sin ax dx \right\}$$

となる。

3 問題

1. 三角関数の直交性を証明せよ。
2. $f(x) = |x|$ ($-\pi \leq x \leq \pi$) をフーリエ級数展開せよ。
3. 2. を参考に $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2}$, $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2}$, $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^{n+1}}{n^2}$ を求めよ。

3.1

三角関数の直交性は、

$$\int_0^{2\pi} \cos nx \cos mx dx = \begin{cases} 0 & n \neq m \\ \pi & n = m \end{cases}$$

$$\int_0^{2\pi} \sin nx \sin mx dx = \begin{cases} 0 & n \neq m \\ \pi & n = m \end{cases}$$

$$\int_0^{2\pi} \cos nx \sin mx dx = 0$$

を証明すればよい。

積分を計算するために、以下の三角関数の公式を使う。

$$\cos a \cos b = \frac{1}{2} \{ \cos(a+b) + \cos(a-b) \}$$

$$\sin a \sin b = \frac{1}{2} \{ \cos(a-b) - \cos(a+b) \}$$

$$\cos a \sin b = \frac{1}{2} \{ \sin(a+b) - \sin(a-b) \}$$

$$\cos^2 a = \frac{1 + \cos 2a}{2}$$

$$\sin^2 a = \frac{1 - \cos 2a}{2}$$

$$\cos a \sin a = \frac{\sin 2a}{2}$$

積分を計算する。

第 1 式について、 $n = m$ の場合

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \cos nx \cos mx dx &= \int_0^{2\pi} \cos^2 nx dx \\ &= \int_0^{2\pi} \frac{1 + \cos 2nx}{2} dx \\ &= \left[\frac{x}{2} + \frac{1}{4n} \sin 2nx \right]_0^{2\pi} \\ &= \pi \end{aligned}$$

第 1 式について、 $n \neq m$ の場合

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \cos nx \cos mx dx &= \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} [\cos \{(n+m)x\} + \cos \{(n-m)x\}] dx \\ &= \frac{1}{2} \left[\frac{1}{n+m} \sin \{(n+m)x\} + \frac{1}{n-m} \sin \{(n-m)x\} \right]_0^{2\pi} \\ &= 0 \end{aligned}$$

第 2 式について、 $n = m$ の場合

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \sin nx \sin mx dx &= \int_0^{2\pi} \sin^2 nx dx \\ &= \int_0^{2\pi} \frac{1 - \cos 2nx}{2} dx \\ &= \left[\frac{x}{2} - \frac{1}{4n} \sin 2nx \right]_0^{2\pi} \\ &= \pi \end{aligned}$$

第 2 式について、 $n \neq m$ の場合

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \sin nx \sin mx dx &= \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} [\cos \{(n-m)x\} - \cos \{(n+m)x\}] dx \\ &= \frac{1}{2} \left[\frac{1}{n-m} \sin \{(n-m)x\} - \frac{1}{n+m} \sin \{(n+m)x\} \right]_0^{2\pi} \\ &= 0 \end{aligned}$$

第 3 式について、 $n = m$ の場合

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \cos nx \sin mx dx &= \int_0^{2\pi} \cos nx \sin nx dx \\ &= \int_0^{2\pi} \frac{\sin(2nx)}{2} dx \\ &= \left[-\frac{1}{4n} \cos(2nx) \right]_0^{2\pi} \\ &= 0 \end{aligned}$$

第 3 式について、 $n \neq m$ の場合

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \cos nx \sin mx dx &= \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} [\sin \{(n+m)x\} - \sin \{(n-m)x\}] dx \\ &= \frac{1}{2} \left[-\frac{1}{n+m} \cos \{(n+m)x\} + \frac{1}{n-m} \cos \{(n-m)x\} \right]_0^{2\pi} \\ &= 0 \end{aligned}$$

以上の計算から、三角関数の直交性が示された。

3.2

$$f(x) = |x| \quad -\pi \leq x \leq \pi$$

をフーリエ級数、

$$F(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \{a_n \cos(nx) + b_n \sin(nx)\}$$

に展開する。ただし a_n, b_n はフーリエ級数である。

三角関数の直交性から、フーリエ係数を求める。

$$\begin{aligned}
 \pi a_n &= \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cdot \cos(nx) dx \\
 &= \left\{ - \int_{-\pi}^0 x \cos(nx) dx + \int_0^{\pi} x \cos(nx) dx \right\} \\
 &= - \left[x \cdot \frac{1}{n} \sin(nx) \right]_{-\pi}^0 + \int_{-\pi}^0 \frac{1}{n} x \cos(nx) dx + \left[x \cdot \frac{1}{n} \sin(nx) \right]_0^{\pi} - \int_0^{\pi} \frac{1}{n} x \sin(nx) dx \\
 &= - \left[\frac{1}{n^2} \cos(nx) \right]_{-\pi}^0 + \left[\frac{1}{n^2} \cos(nx) \right]_0^{\pi} \\
 &= - \frac{1}{n^2} + \frac{1}{n^2} \cos(n\pi) + \frac{1}{n^2} \cos(n\pi) - \frac{1}{n^2} \\
 &= \frac{2}{n^2} \{ \cos(n\pi) - 1 \} \\
 &= \frac{2}{n^2} \{ (-1)^n - 1 \}
 \end{aligned}$$

$f(x)$ は偶関数であるから、 $\sin(nx)$ の係数は $b_n = 0$ となる。また、 $\frac{a_0}{2}$ は $f(x)$ の平均値であるから、 $a_0 = \pi$ となる。したがって、フーリエ級数は、

$$f(x) = \frac{\pi}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2}{\pi n^2} \{ (-1)^n - 1 \} \cos(nx) = |x|$$

となる。

3.3

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2}$$

を求める。

3.2 より、

$$|x| = \frac{\pi}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2}{\pi n^2} \{ (-1)^n - 1 \} \cos(nx)$$

である。 n が偶数の場合は、フーリエ係数は 0 になる。したがって、この式を書き換えれば、

$$|x| = \frac{\pi}{2} - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{4}{\pi(2n-1)^2} \cos \{ (2n-1)x \}$$

となる。この等式について、 $x = 0$ とすれば、

$$0 = \frac{\pi}{2} - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{4}{\pi(2n-1)^2}$$

となる。移項すると、

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{(2n-1)^2} = \frac{\pi^2}{8}$$

となる。

4 問題

1. C を半径 a 、中心 0 の閉曲線とする。このとき、

$$\int_C \frac{1}{(z - z_0)^n} dz$$

を計算せよ。ただし、 n は 0 以上の整数とする。

2. 以下の積分を計算せよ。

$$f(z) = \ln(z - b) + \ln\left(z - \frac{a^2}{b}\right) - \ln z$$

$$\int_C \{f'(z)\}^2 dz$$

ただし、 $b > a$ とする。

4.1

コーシーの積分定理、留数定理から、

$$\int_C \frac{1}{(z - z_0)^n} = \begin{cases} 0 & \text{for } |z_0| > a \\ 2\pi i \operatorname{Res}[f(z), z_0] & \text{for } |z_0| < a \end{cases}$$

となる。それぞれの n の場合について、留数を求める。

$n = 1$ の場合

$$\operatorname{Res}[f(z), z_0] = \lim_{z \rightarrow z_0} \frac{1}{z - z_0} \cdot (z - z_0) = 1$$

$n \geq 2$ の場合

$$\operatorname{Res}[f(z), z_0] = \lim_{z \rightarrow z_0} \frac{d^n}{dz^n} \left\{ \frac{1}{(z - z_0)^n} \cdot (z - z_0)^n \right\} = \frac{d^n}{dz^n} (1) = 0$$

したがって、以下のようになる。

$|z_0| > a$ の場合は、

$$\int_C \frac{1}{(z - z_0)^n} = 0$$

$|z_0| < a$ の場合は、

$$\int_C \frac{1}{(z - z_0)^n} = \begin{cases} 2\pi i & n = 1 \\ 0 & n \geq 2 \end{cases}$$